

認定農業者だより

第19号

R1.7

認定農業者数 (H31(2019).3現在)

管内計：1,253

矢板市：183 さくら市：342 那須烏山市：195 塩谷町：123 高根沢町：270 那珂川町：140

農業経営の発展に向けて法人化を検討しましょう

スマート農業を実践する農業法人

●農事組合法人アグリネオ

代表 吹場寿郎氏●

平成31(2019)年3月、那珂川町に設立された「農事組合法人アグリネオ」は、医療機器メーカーを定年退職して間もない吹場寿郎氏が、親戚の農業者2人に声をかけて立ち上げました。現在の経営規模は、水稻22ha、加工トマト1.2ha、たまねぎ0.8haであり、当地域の集落営農組織としては園芸品目が多いのが特徴です。

かねがね高齢化による地域農業を懸念し、休日は自宅の農作業をしていた吹場氏は、平成28(2016)年頃から、「楽しく、かっこよく、もうかる農業」が実現できる活動をしたと考えていました。

法人の設立後は、代表自ら、ドローンによる水稻の施肥や農薬散布、水位センサー(写真)とそれに連動し

た水管理装置を使用した水田の水管理をするなど、会社員時代に培った電子機器の知識を活用したスマート農業を実践しています。今後は、水田の受託、ねぎの導入、たまねぎの歩留まり向上、トマトの面積増加を図りたいとのこと。また、現在所有する6棟のビニールハウスを有効活用し、消費者が直接収穫体験できるような野菜作りも手掛けたいとのこと。



吹場代表と水位センサー

編集・発行 塩谷南那須農業振興事務所

矢板市鹿島町20-22 TEL:0287-43-2318 FAX:0287-43-4072

塩谷南那須地域の認定農業者の皆様へ



農政部参事兼
塩谷南那須農業振興事務所長
清水 靖夫

4月の定期異動により着任しました清水でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

認定農業者の皆様には、日頃の生産活動や担い手の育成等を通じて塩谷南那須地域の農業の発展に御尽力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、農業を巡る情勢は、人口減少、超高齢化社会の到来、TPP11や日EU経済連携協定をはじめとするグローバル化の進展などにより変革の時を迎えております。県では、本県農業を力強い成長産業へと発展させるため、平成28年3月に策定した「とちぎ農業“進化”躍動プラン」に基づき、園芸生産の戦略的拡大や農産物のブランド化、輸出の促進等に取り組むとともに、ICTを活用したスマート農業や農業と福祉との連携によるユニバーサル農業などの施策を展開して参りました。

塩谷南那須地域においては、今年度、水田を活用した収益性の高い土地利用型園芸を推進するため、露地野菜の新規導入者に対する栽培技術支援や規模拡大等に当たり作業の簡素化、省力化に資するため機械作業実演会を開催するほか、生産基盤の整備を支援して参ります。

また、地域の農業・農村を担う人材を確保するため、新規就農支援体制の確立や農業者の経営安定化、法人化に向けた支援、さらには地域営農継承の核となる経営者の育成など意欲ある多様な人材がチャレンジできる環境を整備しながら、地域を輝かせる取組を目指す農業者を支援して参ります。

さらに、農村地域の元気創出を図るため、ひともの・景観など多種多様な地域資源を活用した農業・農村体験プログラムの開発や地域情報発信を支援するなど、グリーン・ツーリズムの取組を推進して参ります。

「稼げる農業」が展開され、子供たちに夢を与える魅力ある農業・農村の実現には、地域農業を牽引する認定農業者の皆様の御理解と御協力が不可欠でありますので、今後とも御支援よろしくお願ひ申し上げます。

農業経営相談所

農業経営相談所は、担い手等からの多様な経営課題（法人化、規模拡大等）を受け付ける窓口を「栃木県担い手育成総合支援協議会」に設置し、その地域段階として農業振興事務所、JAにサテライト窓口を設置し、課題解決等に向けた提案等を専門家（税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、不動産鑑定士、他）が行うものです。相談は、無料です。農業経営相談所の御利用を希望される方は、農業振興事務所、JAにお気軽にお電話してください。



認定農業者紹介

ゆとりのある経営を目指して

さくら市の磯充洋さんは、本人、パートナー、両親の4人で水稲2.6ha＋トマト50aの経営を行っています。また、1～6月の収穫期を中心にパート2人を雇用しています。

両親がトマト栽培を行っていたため、トマト栽培には興味があり、進学先の東京農業大学ではトマトの研究を行っていましたが、在学中は就農は考えてはいませんでした。しかし、時代は就職氷河期。当時農業も職業選択の1つとして考え始め、これを契機にせっかく就農するのであれば自分の施設を持って農業を始めたいと思いました。そして、自分の専用ハウス20aで就農し、試行錯誤を繰り返しながら経営を安定させてきました。

現在主体とする、越冬の作型では、ライバルである九州が収量を伸ばしており、思ったように単価が上がりませんが、収量の増加や品質、食味の向上により収益を上げられるよう栽培管理の徹底

さくら市 磯 充洋さん

を図っています。また、作型の組合せ、徹底的なコスト低減等を検討しています。

忙しい中でも、できるだけ週に1日は休日を受け、家族との交流の時間にあてています。農繁期は休日が取れない時もあるため、休日をきちんととり、労働力にも精神的にもゆとりのある経営を目指しています。

トマトの栽培が好きで始めた農業なので、就農当初に持っていた、「トマト栽培って面白いな、ここを工夫してみよう。」と思える心の余裕を取り戻し、今後も基本を守りながら、安定的な経営をめざして行きたいとのこと。



高冷地野菜栽培、猛暑対策に工夫

塩谷町の吉原太一郎さんは、本人と両親に雇用3人を加えた6人で、ハウレンソウ120a、大根60a、にんじん60aの高冷地野菜栽培を行っています。ハウレンソウの単棟ハウスは43棟あり、播種時期をずらしながら周年栽培を行っています。

太一郎さんは、工業系の高校を卒業後すぐに就農しました。「跡継ぎだから」の意識は幼い頃から持ち続け、就農には抵抗はなかったのですが、農業以外の知識を得たいと工業系の高校に進みました。おかげで、機械も施設も図面を見れば構造が理解でき、ある程度ものは修繕できるそうです。

もともとは、20棟ハウスで60aハウレンソウ栽培を行っていましたが、7年ほど前に現在の栽培面積に拡大しました。場所柄、水の確保が難しく、これ以上は面積が増やせないため、現在の規模で連作障害を出さずに安定的な収量を確保することを目標としてきました。

塩谷町 吉原太一郎 さん

良質な有機質肥料と土壌改良資材を投入して、連作障害が発生しないように取り組んできました。化学肥料は使用せず、品質を高め、収量を確保してきました。しかし、近年続く夏の猛暑には苦勞させられています。高冷地であるにもかかわらず、日中30℃を超える日が続く、冬場の温度確保を目的としている被覆用のポリの影響で、葉先が焼けたり、枯れて欠株が多くなり、品質・収量が低下しています。今後は様々な品種の試験栽培を行い、データを蓄積して、暑さに強い品種を導入しようと考えています。

また、直売所では色の濃いニンジンの人気が高いため、今年はニンジン栽培にも力を入れてみたいと考えています。



利益率の良い経営で稼げる農業を！

那珂川町 川上賢二さん

那珂川町の川上賢二さんは、平成5年に23歳で就農しました。当時は、和牛肥育部門が主体で繁殖牛も取り入れた一貫経営でしたが、35歳で父親から経営を譲り受けると同時に肥育部門をやめて繁殖部門のみの経営となり現在に至っています。

現在の経営内容は、家族3名で繁殖和牛50頭を飼育し、主食用の水稻とWC Sを併せて約9ha作付けしています。裏作にはイタリアンライグラスを栽培する畜産＋土地利用型の複合経営となっています。

経営の特徴としては、利益率の良い経営を目指すため、繁殖牛の改良を進めています。また、自家栽培のWC Sの利用拡大を図り、飼料費の節減を実現するため、主食用の水稻栽培を当初の5haから現在約3.5haまで縮小しました。

現在は、JAなす南和牛部会の会長として、部会の発展と地域和牛の振興のためにも奔走さ

れています。

今後の経営の目標としては、ホイールローダーやトラクターの更新導入による機械化をより進めることで作業の効率化を図り、繁殖和牛経営の規模拡大を計画しているところです。



栃木いちごGAPについて

いちご生産者の皆様

本年度より「栃木いちごGAP」の取組が始まります。JAや農業振興事務所等の指導の下、「栃木県GAP規範」に基づく「食品安全」、「環境保全」、「農作業安全」の58項目に取り組むことを目指します。

栃木いちごGAPへの取組

(JAや農業振興事務所等が指導、58項目を目指す)



自己改善



外部検査

(無作為抽出、JA栃木中央会・農業振興事務所・栃木県経営技術課が行う)



※検査での指摘事項について検査実施者より報告書が渡されます。

水田を活かした土地利用型園芸導入・拡大のすすめ ～「園芸大国とちぎづくり」の推進～

少子高齢化や食の多様化により米の消費量が年々減少する中、耕地面積の約8割を占める水田をいかに活用して行くかが水田農業の大きな課題となっています。

また、平成30年度からの国の米政策の見直しにより生産者はこれまで以上に主体的な経営判断や販売戦略に基づく作物の選択と生産が求められています。

このような中、県では水田を活用した収益性の高い園芸作物の導入・拡大を図り、「園芸大国とちぎづくり」の実現を目指しています。



機械によるねぎの収穫作業

◆「園芸大国とちぎづくり」とは、これまで培ってきた技術の向上に加え、耕地面積の8割を占める水田を活用することで、園芸のさらなる振興を図り、収益性の高い農業（園芸生産）の実現を目指す取組です。

○ 塩谷南那須地域における推進品目

塩谷南那須地域の特色を活かして生産される6品目（ねぎ、たまねぎ、さつまいも、枝豆、うど、しゅんぎく）を推進品目として位置づけ、生産振興を図っています。

○ ほ場見学会・機械実演会の御案内

露地野菜に興味のある方を対象に、実際に水田で野菜を生産している身近な事例を見学することで、露地野菜の導入イメージをつかんでもらうことを目的に、本年度は計7回の「ほ場見学会・機械実演会」の開催を次のとおり予定しています。

なお、期日・場所等の詳細が決まりましたら振興事務所のホームページやチラシにて周知してまいります。

参加を希望される方、興味をお持ちの方は、塩谷南那須農業振興事務所 経営普及部 園芸課（TEL0287-43-2318）までご連絡ください。皆様の参加をお待ちしています。



機械によるさつまいもの堀取り作業

ほ場見学会・機械実演会予定

ほ場見学会・機械実演会	開催予定時期	開催場所	内容
たまねぎ収穫機実演会	7 / 上	塩谷町内	機械によるたまねぎの堀取り・収穫作業
枝豆収穫調製機実演会	7 / 下	高根沢町内	機械による枝豆の収穫調製作業
さつまいも収穫機実演会	9 / 下～10 / 上	未定	機械によるさつまいもの収穫作業
たまねぎ定植機実演会	11 / 上	高根沢町内	機械によるたまねぎの定植作業
ねぎ収穫機実演会	11 / 下	高根沢町内	機械によるねぎの収穫作業
うど伏せ込み作業見学会	12 / 上	さくら市内	うどの伏せ込み作業
しゅんぎくほ場見学会	12 / 中	高根沢町内	しゅんぎくの栽培状況とウォーターカーテン栽培

栃木県農業試験場が開発した期待の新品種 「とちぎの星」「もち絹香」について

1 夏の暑さに強く極めて美味しい水稻新品種「とちぎの星」

(1) 品種の特徴

「とちぎの星」はイネ縞葉枯病に抵抗性で、高温や日照不足等の異常気象時においても、他の品種に比べ安定的な収量、高品質米を得ることが可能です。さらに、(一財)日本穀物検定協会の米食味ランキングにおいて、平成27、29、30年産で「特A」評価を獲得する極良食味であることから、作付は年々拡大しています。

成熟期は「コシヒカリ」より5日程度遅く「あさひの夢」より6日程度早い中生で、収量は「コシヒカリ」より1～1.5俵程度の多収になります。



(2) 作付のメリット

「コシヒカリ」と比較した場合、10aあたりの収量が0.5俵多ければ、収入は「とちぎの星」の方が多くなります。したがって、適正な栽培を行うことにより「コシヒカリ」の収入を上回ることが出来ます。(図参照)

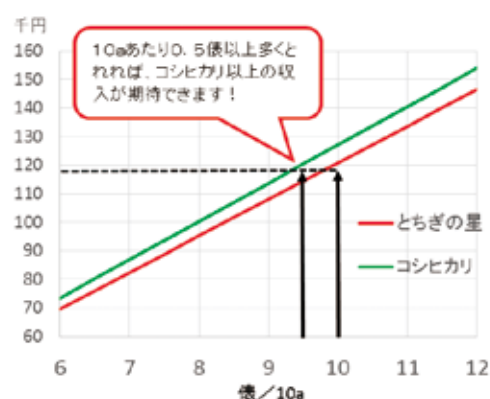


図 収量と収入の比較

(3) 栽培上の注意点

高温登熟性には優れますが、他品種同様、出穂後の水管理に注意し、早期落水は避けてください。

2 β-グルカンを豊富に含んだ美味しいもち麦の新品種「もち絹香(きぬか)」

「もち麦」は、水溶性食物繊維のβ-グルカン含量が高く、食味が良いことから最近需要が増えています。国産もち麦への要望を受け、栃木県農業試験場は収量性や品質に優れた「もち絹香(きぬか)」を開発しました。

『品種の特徴』

ア 食味が優れる

もち性で歯ごたえ、粘りがあり、大麦特有のにおいが弱く、香りも優れています。

イ 炊飯後褐変しにくい

大麦は炊飯後に時間が経つと褐変し、見た目が悪くなりますが、本品種は時間が経っても褐変しにくい特性を持っています。

ウ 優れた栽培性

稈長が短いため倒伏の危険性が小さく、多収をねらえます。

現在は県南部を中心に試作を行っており、当事務所でも令和2年産でさくら市に展示ほを設置し、現地における栽培性、収量性を確認する予定です。



農業次世代人材投資事業のご案内

次世代を担う農業者を目指す方に就農前の研修を支援する資金（準備型）と就農直後の経営確立を支援する資金（経営開始型）を交付します。

■交付対象者の主な要件

- ①前年の世帯全体の所得が600万円以下である者
- ②独立・自営就農時の年齢が、原則50歳未満の認定新規就農者

1 準備型

栃木県が認める研修期間（県農業大学校等）で研修を行う就農希望者で、一定の要件を満たす方に、最長2年間、原則、最大150万円/年（半年ごとに75万円）を交付します。

■申請先 県農業振興公社

2 経営開始型

一定の要件を満たす新規就農者に、農業経営を開始してから経営が安定するまでの最長5年間、最大150万円/年（半年ごとに75万円）を交付します。

※経営開始2年目以降、前年所得に応じて交付額が変動する。

※交付期間中、「経営・技術」「営農資金」「農地」の各課題に対応できるよう専属のサポートチームが訪問・指導を行う。

※交付開始3年目に「中間評価」を実施する。

■申請先 各市町農政担当課

スタートアップ講座に参加しませんか！

新規就農者、青年農業者、次世代の担い手となる若手女性農業者とパートナー等を対象に講座を開催し、経営参画や次世代農業者のネットワーク化を図ることを目的にしています。お誘い合わせの上、参加ください。



第1回★	7月17日 さくら市喜連川公民館	<地産地消・食育・6次産業化> 地元食材を使ったマクロビフレンチを作ろう
第2回	8月21日 栃木県庁塩谷庁舎	<農作業時の安全対策> 農業機械操作・農作業時の健康管理
第3回	9月下旬 栃木県庁塩谷庁舎	<農業環境の管理> 土壌肥料・病虫害防除・鳥獣害対策・GAPの知識
第4回★	10月下旬 栃木県庁塩谷庁舎	<販売促進・ブランディング> 手書きPOP・チラシで売上げアップを目指そう
第5回	11月14日、22日 栃木県庁塩谷庁舎	<農業の基礎知識> 農業複式簿記講座（全2回講座）
第6回	1月16日 栃木県庁塩谷庁舎	<農業経営管理> 決算書を俯瞰した経営分析手法・演習
第7回★	1月下旬 栃木県庁塩谷庁舎	<情報発信> 写真撮影テクニックを学び情報発信しよう

★は昼食交流会あり（昼食、実習を伴う講座は実費負担をお願いします。）

◇開催日、内容は変更することがあります。

◇申込の際は振興事務所まで連絡ください。希望者には、託児支援があります。

塩谷地区認定農業者協議会・ 南那須地区認定農業者連絡協議会の動き

塩谷地区総代会が3月13日に、南那須地区総代会が4月26日に開催され、両組織とも事業計画が承認されました。また、両組織とも会長は留任（塩谷地区：小島敬介氏、南那須地区：皆川美範氏）となりました。塩谷地区認定農業者協議会第1回研修会は6月17日に那須烏山市内で開催され、GAP、機械化（ドローン）について研修しました。南那須地区では7月10～11日に東京都豊洲市場の視察等を行いました。



水田でのドローン利用を研修した（塩谷地区）

栃木県農業大学校・学生募集

栃木県農業大学校（本科）は、農業経営学科、園芸経営学科、畜産経営学科の3学科で構成されており、令和2年3月の高校卒業予定者等に対し下記の日程で入学試験が実施されます。

【教育内容・募集人数】

学科名	教育対象品目	募集人数
農業経営学科	米・麦・大豆、露地野菜（たまねぎなど）	25名
園芸経営学科		40名
野菜専攻	いちご、トマトなど	
花き専攻	きく、シクラメン、ポインセチアなど	
果樹専攻	なし、ぶどう、りんごなど	
畜産経営学科	酪農、肉牛	15名

【入試日程】

試験区分	出願期間	試験期日
推薦入学試験	令和元(2019)年 9月5日～9月26日	令和元(2019)年 10月30日
一般入学試験 (前期)	令和元(2019)年 11月20日～12月9日	令和2(2020)年 1月9日
一般入学試験 (後期)	令和2(2020)年 1月17日～2月7日	令和2(2020)年 2月21日

【経費等】

- 入学金5,650円 ● 授業料 年額124,800円
- その他の経費 1年約396,800円 2年約116,800円

